あれから丸8年

冷たい雨が降りしきる中で、震災から丸8年を迎えた。

被災地歌津の津龍院と西光寺では、東日本大震災犠牲者の供養会が催された。午後2時過ぎからは町主催の慰霊祭が執り行なわれ、祈りの日となった。

震災直後の炊き出しに始まり、物産交流、スポーツ交流とご縁ができた桐生市から、「桐生ボランティア協議会」「災害ボランティアネットワーク桐生」「桐生仏教会」「NPO法人夢未来21」それぞれの代表者の方々7名が前日から来訪され、津龍院、鎮魂の森、ハマーレ歌津、西光寺で供養。午後からは防災庁舎付近で慰霊されました。震災直後の百ヶ日法要に始まった供養は、今年で8回目を数えた。有難いことである。

津龍院

西光寺

ハマーレ歌津

鎮魂の森

2月18日にも関東・関西から浄土宗の僧侶10数名、大相撲の豊ノ島関ほか2名の力士も来訪され、伊里前湾を一望する鎮魂の森で津波犠牲者追悼法要を行っていただきました。

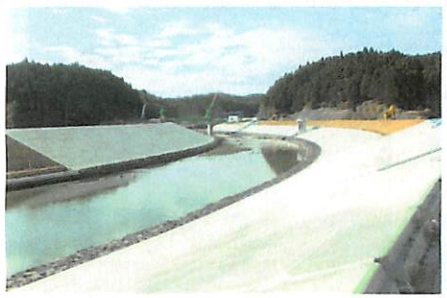
鎮魂の森での津波犠牲者法要の様子（2月18日）

「今も地盤は動いている」〜隆起し続ける地盤〜

国土地理院が続けている観測によると、東日本大震災を引き起こした「東北地方太平洋沖地震」によって沈下した地盤が、南三陸町・気仙沼市で隆起し続けている。

南三陸町では、本震で68㌢沈下した。志津川では、この1年で3㌢隆起し、8年間で47㌢が戻った。東南東方向（海側）に4・5㍍ずれた水平動は、この1年で4㌢き、8年間でも5・8ずれていることから、災前より陸側に海水遡っているようである。

いずれにしても、8が経った今でも地盤はき続けている。先日、震学界で発表された今の宮城県沿岸における震発生確率は、30年以に90%、マグニチュー7・0クラスの地震で波を伴うという。現在防潮堤や河川堤防は完したところもあり、施途上の所もある。海岸の状況は震災前とは大く異なっている。避難る時、どこが安全か一ひとりが現地を見て確しておくことが必要である。油断してはならない



復興支援広報紙
一燈
歌津地区
復興支援の会一燈
0226-36-2575
https//utatsu-ittou.amebaownd.com
E-mail:utatsu1@gmail.com

第　8　号
（通算第66号）
平成31年4月1日（月）発行

この復興支援広報紙は「JT NPO応援プロジェクト助成金」を受けて発行しています。
JT NPO応援プロジェクト